個人用批評用紙

氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

批評者＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

使い方

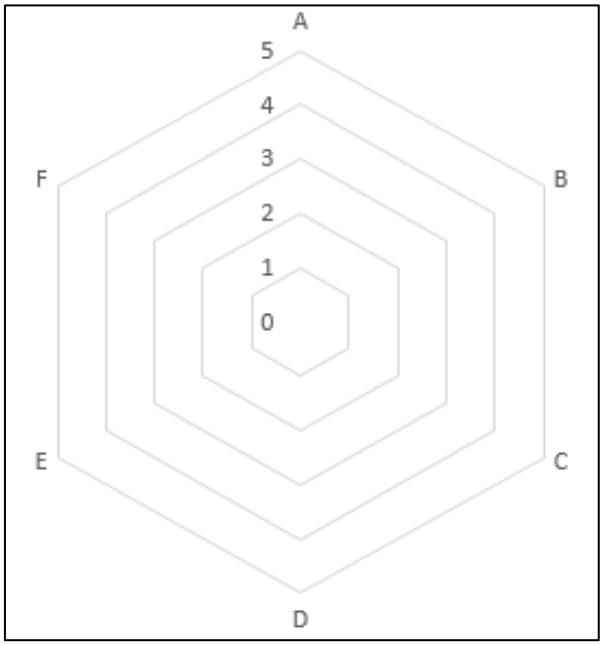
1. 演者は事前に別紙で自己評価を書きだします。
2. 批評者にこの用紙を渡し、採点をしていただきます。
3. 自己評価と批評者評価のギャップ（差）を算出し、分析します。

分析して分かる事の一例

客観的に演技を観られた場合の、自身の長所と短所が数値化されます。
演技に対する、自分の思い込みを洗い出すことができます。

アドバイス

合計点を参考にするよりも、チャートの示す形に注目しましょう。点数が低いことが問題なのではなく、自己評価とアドバイザーの評価に大きなギャップがあることの方が、問題となります。自分の弱点を見つけることが目的のツールです。上手く運用して、上達にお役立てください。尚、アドバイザーの評価が必ず正しいとは限りません、取捨選択の権利は演者にあることを忘れないでください。



カテゴリー

A: キャラクター性、特長性
B: 演技と音楽の相性
C: 演技と衣装の相性
D: 表情・活舌・所作の自然さ
E: テンポ
F: 最大インパクト・クライマックス

評点

1: 舞台にあがるべきではない
2: 粗い・弱い・不自然・合っていない
3: 方向性は正しい
4: 良い・とくに問題を感じない
5: 上手い・面白い・不思議・好き

コメント